

私は大きな地震体験は2回あり、初めは現役の時の阪神大震災であり、その時も感じたことですが、テレビに映る画面は現実のものと思えないものでした。

昼食も終わり、ほっとしてテレビを見ている時に「ぐらぐら」と揺れはじめ、家具、テーブルを見るのがやっとでした。テレビに映る画面が大きくなり、津波が防波堤を軽々と越え押しよせてきて、自動車や舟が流されていくものでした。

私は当時すでに防災リーダーとして自治会役員でしたが、瞬間頭が真っ白で何も考えられませんでした。

その頃自治会では会長以下で安全パトロールに入っていました。幸い我が家は大きな損害もなく家族全員無事でしたが、今発災し、家屋が全壊状態となったらどう対応できるでしょうか。その様な防災対応をとることが今必要なのでしょうか。（鈴木速水）

あの時自分は、ソファーに座ってテレビを見ていました。

その時、緊急地震速報が入り、ぐらっ！ぐらっ！と尋常ではない大きな揺れを感じました。それも、今まで感じたことのない大きな、ゆっくりとした揺れ。立ち上がって、隣の母親のところに行こうとしたが腰をとられてその場にへたり込んでしまったことを覚えています。後で知ったことですが、これが長周期地震の特徴だそうです。テレビからは「東北地方で震度7を超える大地震が発生！」太平洋沿岸地域には大津波警報が発令されたことが連続して流れてきました。画面では、後の「奇跡の一本松」と言われた松原に押し寄せる大津波の画像が、田圃を飲み込む真っ黒な津波の押し寄せる姿が繰り返し映し出され、今まで全く感じたことのない恐怖に襲われたことを覚えています。

当然、茅ヶ崎市にも大津波警報が出ました。初めての事です。その時自分のとった行動は、ただ茫然とテレビの映像を見ていたこと。飲み水、食糧等非常時の対策には全く思いが及ばなかったことを覚えています。

幸いにも茅ヶ崎では大きな被害もなく無事でしたが、もし東北地方のような被害があったらと思うと、普段からの対応がいかに大切か思い知らされました。

その年の防災訓練では、初めて津波避難訓練を取り入れました。その時は、津波に関する関心も高く、普段の参加者より、150名位それも親子連れの参加者が増えました。

一つの事に特化した訓練、マンネリ化した訓練からの脱皮の重要性の様なものを感じさせられた出来事でした。（共恵中央:T. S）

あの時私は、退職前の最後の会議で茅ヶ崎コミセンでの会議中でした。

緊急アラームが、各自の携帯が一斉鳴動。第一波の振動で、伏せろー！！と大声を上げていた。

前のビルの避雷針が弓なりに揺れ、尋常でないことを感じた。

揺れが落ち着き、各人が職場に電話連絡。異常なしを確認し一安心。一階におり、事務室で津波の第一波が海岸から畑を飲み込んでいく様子の中継していた。館内放送が無かったので、館内放送で知らせるようお願いし、二階会議室に戻り、今後の対策会議を開催した。

再度、職場に連絡するが5分過ぎには、携帯が不通となっていた。かろうじて、公衆電話が繋がった。

退職して10年、2月にまた地震。昨日のように思い出しました。忘れかけた時に、再び警鐘のような地震でした。備えあれば憂いなしといえます。もう一度備えの見直しをしてみます。

（若松町幸自治会 倉金）